



連載第五回

■ 神戸とエトランゼ ■

# いつまでも仕事を

― エリーゼ・ユーハイムさん ―

陳 舜 臣

戦争中たべ物がなく、すこしでもお腹の足しになるものが売っていると、行列をつくったのをおぼえておられるだろう。

たいていの食料品店は、店頭にならべてマル公で売るのはほんの申訳ばかりで、ほとんど裏口から闇で流したものだ。そのとき、洋菓子ユーハイムでは、ありったけの品物を、ぜんぶ店頭で売った。一人あたりはどんなに少くとも、とにかく皆に行き渡るように心掛けた。

これがユーハイム精神の一端である。

「商売で」ばんだ切なのは正直と誠実です。それが基礎となって客の信用が築かれます。これに加えて清潔と親切がまた大切な要素です。そうすればお客様は、自分

が心の底からもてなされていると感ずるにちがいないありません。これが商売の秘訣だと思います」

エリーゼ・ユーハイムさんは、ものしずかに語った。

エリーゼさんは、東独との境界に近い西ドイツのハルツ州に生まれた。十三才で父をなくし、親戚に預けられあらゆる辛苦をなめてきた。この小柄な品のよい老婦人には、なにか一本シシが通っている。ふとい鉄棒ではない。ピアノ線のような、細いけれど強靱なスジである。

カール・ユーハイムさんと結婚したのは第一次大戦前で、ご主人と一しよに中国の青島へ渡った。青島に着いてまもなく戦争が初まった。ドイツに宣戦布告した日本が青島を攻略し、在留ドイツ人は抑留されて日本へ送られた。つまり戦争がユーハイムさんを日本に結びつけた

ドイツ菓子・喫茶

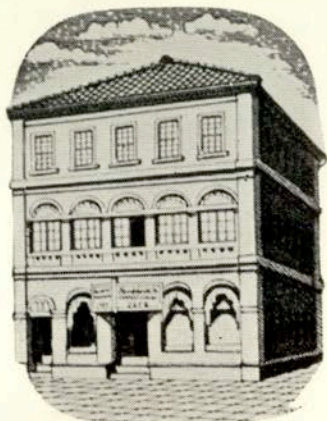
Fachriznis

ユーハイム

最後に'Sと複数がつけられた  
ユーハイムの店名



現在のユーハイム本店



戦前のユーハイムの店

のである。日本の欧風菓子は、このとき青島から渡日したドイツの人たちによって紹介されたのだ。「青島からの仲間だったフロインドリーブのおじいさん、ケテルのおじいさん、いまはみんな亡くなりました」

ご主人のカール・ユーハイム氏は来日して東京の明治屋にはいった。日本で洋風の生菓子をつくった最初の人である。エリーゼさんは、別に横浜で店をもった。とにかく彼女は、じっとしているのが大きらいである。

「人間は仕事をしなければいけない」

とおっしゃる。一家の主婦として、家事だけを見るというのは、エリーゼさんの気性にあわなかったのであらう。

横浜の「エリーゼ・ユーハイムの店」は大いに繁昌した。だが好事魔多しで、業績躍進の途上、あの関東大震災に見舞われたのだ。横浜の店でも何人か死傷者を出しご主人のカールさんも重傷を負った。ユーハイム一家は船で避難することになった。

京浜沿岸の石油タンクの石油が海へ流れこみ、それが燃えていた。文字どおり「火の海」を乗り越えて、一家は神戸へ着いた。これは避難であるが、エリーゼさんはじっとしておれない。

横浜で全滅した店を神戸で再建する。——彼女はそう決心した。こんどはご主人も参加することになった。現在のユーハイムの店名を見てもわかるが、最後にひがはいつている。

夫婦共同の事業だったのだ。店はいまの生田警察署のむかひに構えた。震災の年の十一月一日に開店したのである。しかもご主人は重傷を負っていたので、エリーゼさんが一人でがんばったのだ。彼女のファイトは、横浜の街の復興を待っておれなかったのだろう。とにかく、人間は働かねばならない。

「あのころは、なにもありませんでした。お金も場所もない。横浜の店にいた人が五人、ユーハイムはどこにいたかと、神戸までさがしに来てくれました。私は言い





「仕事が好きです」と優しくほほえむエリーゼさん（右）と話される  
陳舜臣氏（ユーハイム本店にて）

ました。神戸で仕事をしましょう。そして、お金を借りて、仕事を始めました。一日に三時間ぐらいいしかねませんでしたね」

大へんなエネルギーである。神戸の新しい店も繁昌した。なにしろ、材料を厳選し、エリーゼさんの監督の下で、第一級の技術を使つてつくる洋菓子である。ふつう一個二銭が当時の相場だったが、ユーハイムの洋菓子は八銭で、それも「とぶように」売れたらしい。

正直と誠実。清潔と親切。ひたむきなエリーゼさんの努力によつて、店が栄えないわけはない。店は小さかったが、工場は鉄筋の大きいのを建てた。戦後進駐軍のパン工場となり、現在「コスモポリタン」になっている所が、むかしのユーハイムの工場だったのである。

万事、順調だった。ご主人と力をあわせ、店の人たちも果命に協力した。仕事、仕事に明け暮れる生活。それを一つの奉仕と考えていたエリーゼさんにとっては、ほんとうに生き甲斐のある日々であった。

しかし、また戦争になった。まへの戦争は、ユーハイムを日本に結びつけ、震災が神戸に結びつけた。が、こんどの戦争は、エリーゼさんを日本からひき離したのである。

ご主人のカールさんは、終戦前夜、八月十四日に神戸で亡くなった。息子さんはドイツで戦死していた。戦争が終つて、傷心のエリーゼさんはドイツに送還されたのである。

「戦後のドイツはほんとうに辛かったです。なにが辛いといって、仕事ができないほど辛いことはありません年の人いりません、と言うのです。お嫁さんの家で家の仕事を手伝つて孫の世話をする。それだけでした」

活動家のエリーゼさんにとって、仕事のできない戦後ドイツの生活は、さぞ辛かったにちがいない。忙しく働いた神戸の日々が、なにかにつけて思い出された。あんなに心血をそそいだユーハイムの店。それが、もう形も影もなくなったのかと思うと、耐えられないほど侘し

った。しかし、神戸におけるユーハイムがまったく消滅したのではない。ユーハイムの残された日本人従業員が結束して、洋菓子製造をつづけていたのである。戦後しばらく、彼らは老舗「ユーハイム」を名乗らなかつた。なにしろ、手にはいる材料なら、なんでも使わねばならない時代であつた。ユーハイムの伝統である「厳選された材料。最高の技術」が実行できる世の中ではなかつた。昭和二十五年。戦争の傷もようやく癒えて、材料の選択や技術面でも、なんとかユーハイムの面目を保てる見通しがついて、はじめて『ユーハイム』の名をつかつたのである。

新しいユーハイムのすべり出しも順調であつた。しかし、なにか足りない。材料や技術ではない。なにか、ほかのものである。彼らはなにが足りないかを知つていた。ユーハイムの精神的な支柱である。伝統の象徴が必要なのだ。

エリーゼさんである。

「エリーゼさんに来てもらおう。なにもしていただくなくても、われわれのそばにいてもらうだけでいいのだ」だが、戦後の混乱期に、エリーゼさんがドイツのどこにいるのか、まったくわからなかつた。神戸のユーハイムでは渡独する神戸大学の山下教授に頼んで、エリーゼさんをさがしてもらうことにしたのである、山下教授はエリーゼさんをさがしてあてた。

—— よろこんで参ります。

エリーゼさんは言下にひきうけた。彼女の胸には、「仕事」にたいする憧れが湧き立っていたのである。單身なつかしの日本に飛んできて、ユーハイムの社長に就任した。昭和二十八年のことである。

この話は国際親善話として有名であるから、ご存知の人も多いであらう。

それから十年たった。

エリーゼさんは二百五十人の従業員の母親である。自分の生活はつましいが、なにかあるたびに、孤児院に

いろんなものを寄贈する。奉仕精神から出た、心からのプレゼントなのだ。

「子供たちからいい手紙が来ます」

エリーゼさんはほほえんだ。

失礼な言い方だが、吹けばとびそうな、この小柄で上品な老婦人の、どこにフアイトがひそんでいるのか、ふしぎな気がする。私がインタビュースることになったとき、エリーゼさんは「胸がドキドキする」とおっしゃつたそうだ。それほどハニカミヤでもある。

七十を越したいまでも、目も耳も達者である。「百まで生きますよ」とお愛想を言うと、エリーゼさんは首を振って、

「仕事をしないで生きるのは、生きることではありません」とおっしゃつた。

いまエリーゼさんはそわそわしておられる。半年の予定で近くヨーロッパへ行くのだ。

「去年の五月一日に、曾孫（ひいまこ）が生まれました。私はまだ見ていません。こんど帰って曾孫の顔が見られます」

目を細めたエリーゼさんの顔は、ほれほれするほど柔和であつた。

「曾孫さんにお会になつて、ゆつくり骨休めをしてもらつしやい」

「いいえ！」エリーゼさんは断乎として首を横に振つた。「こんどの旅行も仕事です。ヨーロッパのほうぼうをまわります。各地の菓子製造工場を見学したり、技術の話を書いたり、連絡したり……たくさんたくさん仕事があります」

やさしいおばあさんだが、いつまでも仕事にフアイトを燃やしておられる。

骨休みなどという加減なお世辞は言うまい。エリーゼさん、いつまでも長生きをして、そして、仕事をしてくださいます！

（作家）

夏を装う美しい帽子



婦人帽子

マキシム

神戸・トアロード TEL ③ 6671-13  
東京・銀座3-2 TEL (535) 5041



ネクタイの

元町バザー

神戸・元町





特 選  
ハンドバック  
専門の店

**シロサ**

元町2丁目・㊦0813

*ariel*

アリエル

フランス製アリエルの

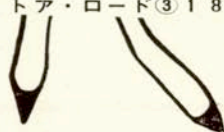
レインコート入荷しました



美しさを創る...

**アスター・ニュートン**

トア・ロード㊦1818



## 神戸っ子座談会

# すばらしい 噴水が 誕生する！

最近の神戸青年会議所(神戸JC)は活ばつな活動を展開して神戸っ子の話題を集めています。東洋の貿易港といわれる、シンガポールの青年会議所と、姉妹JCとして提携することになり牛尾吉朗理事長をはじめとする16人の代表をシンガポール市に送り、去る4月16日めでたく姉妹JCとして調印式を終り、民間外交の成果を充分にあげ国際親善にも大きな役割を果たしています。

なお、神戸青年会議所では「神戸の観光のポイントを作り町を美しくしよう」と神戸市をはじめ各団体に呼びかけ、東遊園地の一角に大噴水の建設を主唱し、着々と噴水建設の工事が進められています。

こうした、神戸青年会議所の強い歩みを中心に、シンガポールJCに派遣された神戸JC代表団のメンバーの方がたにお集りいただき、話を伺って見ました。

神戸市とシンガポール市の  
かけ橋に！

神戸JCとシンガポールJCと姉妹JCとして提携されたそうで勿論「国際親善」という大きな役割を果たされた訳ですが、この度の姉妹JC締結までの経過とか、代表団一行のご苦心談などからうかがいたいのですが――

東「去年、私は、神戸JCの国際関係委員長をつとめていました。が、たまたま、世界JCの大会が大阪で開かれまして、この時、シ

### ■出席者

牛尾吉朗

神戸青年会議所理事長  
ウシオ工業KK社長

竹田剛

神戸青年会議所副理事長  
関西貿易常務取締役

鳥越浩

神戸青年会議所  
国際関係委員長  
神戸オプチカルKK社長

東敬三

神戸青年会議所会員  
ケイエスアズマ商会社長

ンガポールJCの当時の副理事長をなさっている、イー・ホン・シヤ氏が神戸に立寄られて「シンガポールにもぜひ来てもらいたい」と招きを受けていたのです。そして、やはり昨年10月、香港でのJC、世界会議に、神戸JCから数名この会議に出席しましてこの会議のとき、参加した神戸JCのメンバー揃って、シンガポールJCを訪ねまして、神戸JCから記念に兜をプレゼントするなど親密な交流をもつようになつたんですね。

ことしにはいつてから、シンガポールJCの理事長にイー氏が就任されます。神戸JCとのつながりが強くなり、現在の鳥越国際関係委員長の提案がきっかけに



なつて姉妹J.C.を結んではどうか  
というようになつた訳です。

姉妹J.C.は、神戸J.C.からの提  
案だつたんですが、シンガポール  
J.C.でも、全会員一致で賛成とい  
う非常にうれしい結果を得て、調  
印式の機会を待っていましたとこ  
ろ、シンガポールで、世界会議  
で、各国の代表を前にしてサイニ  
ングセレモニーを行ないたいと、  
シンガポールJ.C.からの案内を受  
けてまして、神戸J.C.では調印使節  
団を送つてめでたく姉妹J.C.の提  
携を結んだ訳です。

牛尾 「神戸青年会議所では、今  
回の姉妹J.C.の提携につきまして  
は、あらゆる角度からシンガポー  
ル市と神戸市とつながりを検討し  
まして、国際親善に神戸として手  
を結ぶ都市であるという確信をも  
っています。

第一に地理的条件が非常に似通  
っている点、第二に、経済的に見  
て、いづれも世界的な港都である  
ということ、第三に、現在、實際  
に貿易などをとおして、非常に密  
接な関係にあること、これは貿易  
高をこらんだいてはつきり  
しています。例えば、神戸市とし  
て在外事務所をおいているのは、  
世界中でシンガポールだけなん  
です。

やはり貿易上絶対に必要な拠点で  
あるということがつかめました。

我われ、神戸J.C.としましては  
現在、神戸市が、シャトル、マル  
セーユと姉妹都市を結んでいます  
が、この次の段階として、シンガ  
ポールと姉妹都市を結んではどう  
かという意向をもっていますし、  
今回の姉妹J.C.の提携については  
神戸市とシンガポール市のかけ

橋の役割を何とかして果したいと  
いう目的で行なつたものです」

鳥越 「いま牛尾理事長がいわれ  
たように、シンガポールJ.C.との  
提携は、従来の立場とは逆に神戸  
市をリードして行こうという積極  
的な意味をもっているんです。

神戸J.C.としての夢はこれを契機  
に、南アフリカ、南米にも、ス  
ターJ.C.をもち、国際親善につく



牛尾氏



竹田氏



鳥越氏



竹田氏

したいということです」

—シンガポールと神戸青年会議  
所の姉妹J.C.の調印式の模様は—  
竹田 「東南アジア会議シンガポ  
ール大会が、4月16日、ビクトリ  
アシアターで行われ、神戸J.C.の  
代表团も開会式に列席し、開会式  
の終了後、ビクトリア・メモリア

ルホールに席を移し、文部大臣を  
始め政府高官、各界来賓、各国J  
C代表が列席のうちに、海軍軍楽  
隊が演奏のなかを、サインの交換  
とプレゼントの交換が行われ、牛  
尾理事長が挨拶、鳥越国際関係委  
員長が通訳するという、盛大な調  
印式でした」

牛尾 「シンガポールでは当日の  
模様は詳しく報道され、特にテレ  
ビは東南アジア会議から調印式ま  
でを番組に織りこむと言う行届い  
たもので、特に参加した各国J.C.  
も調印式はこの会議でのハイライ  
トだと感激していましたよ」

東 「この度の調印式に牛尾夫人  
が同伴出席され、調印式に花を添  
えられましたね」

鳥越 「国際会議の団長格の人は  
ご夫人を同伴されることですね」

竹田 「テレビ局も敬意を表して  
牛尾夫人に盛んにカメラを向ける  
んだが、我われには、カメラを向  
けてくれないんですよ」(爆笑)

—こんどは、話題をかえていた  
だいて、〃神戸っ子〃の方がたに  
シンガポールを紹介していただき  
たいんですが—

牛尾 「シンガポール市は人口、  
170万と言われています、町全  
体は非常に美しいし、市民の公衆  
道徳への関心も深く、東南アジア  
最大の近代都市ですし、ここでは  
後進国と言うような文句は当はま  
らないでしょうね、例えば、市庁  
舎でも、立派なものでね夜になれ  
ば、市庁舎を照明して、夜空に浮  
いて見えるんです。そしてこれが  
市の名物にもなっているんです」  
鳥越 「確かに、そう言う演出は  
うまいですね。外人同志の会話の  
なかには、その町がクリンな町



であるかどうか必ず話題になりまして、ですから『美しい町づくり』は非常に大切なんです」

東 「市庁舎の環境は、シンガポールと神戸とよく似ていますね」

竹田 「そうだな、シンガポールにはまた、華僑が非常に多く、人口の7割近くいますね。そして口を揃えて住みよい町だといえますね。これも神戸に似ているでしょう。仮に、香港を大阪にすれば、シンガポールは神戸という感じがしますね。コスモポリタンな町です。よく似てますよ」

牛尾 「東南アジアの市民は人種的偏見はあんまり持っていないことも面白いね。やはり白人を異人さんと呼んでいますからね。日本人は同胞という立場で話をしていくようです。また、日本人とはよく似てますワ」(笑)

竹田 「あなたは、どうしてそんなに日本語が上手なんだと言われましてね」(一同爆笑)

向こうの上流家庭では、イギリスに留学させるか、日本に留学させるかを決めるんですよ」

牛尾 「それに、東南アジアの経済圏では、バンコック、香港とともにこのシンガポールが大きなウェイトをもっていますね」

バンコック・シンガポール・香港を結ぶ経済ラインというものがあ

るでしょう」

竹田 「そして、面白いのは、バンコックはミリタリズム、シンガポールは社会党政権と対照的です。シンガポールはいまのところ緊縮財政で、小さくまとまっていると

言うところでしょう」  
―目下、神戸青年会議所の主唱で噴水建設計画が進められている

と聞きましたが―

牛尾 「噴水の建設は予定どおり進められ、7月中旬に竣工され、8月1日、放出し披露されます。直径25m、約18m吹上げ、3色の照明を入れるという、日本では初めての雄大な噴水ができます」

しかし、バンコックでさえ噴水は6・7ヶ所あるんだし、あんまり自慢する程のことではないと思いますが、一応神戸港の玄関口を飾るにふさわしいものにはなると



姉妹J C調印式サインする牛尾理事長  
(シンガポールにて)

思いますよ」

竹田 「観光施設の面から見てもむしろ、東南アジアの方が進んでいますね」

牛尾 「バンコックの噴水などは全部、市民の寄附で建設されたらしく案外に建設は早いですよ」

東 「これは、神戸の市民として考えなくてはいいけないところでしょね、先ほど鳥越氏が言われたように、外人の町への問題意識ということは非常に強いから、神戸に噴水が出来れば、神戸の株が

ぐっと上るでしょう」

牛尾 「神戸が国際都市であるという誇りをもとうとする以上は、噴水の一つぐらいは当然あるべきだと思えます。今秋には大平洋市長会議もあることで、観光の一つのポイントとしての役割も果たしてきますよ」

それに将来の神戸が、文化商業都市を目指すのならば観光的な施設は充実させてほしいですね」

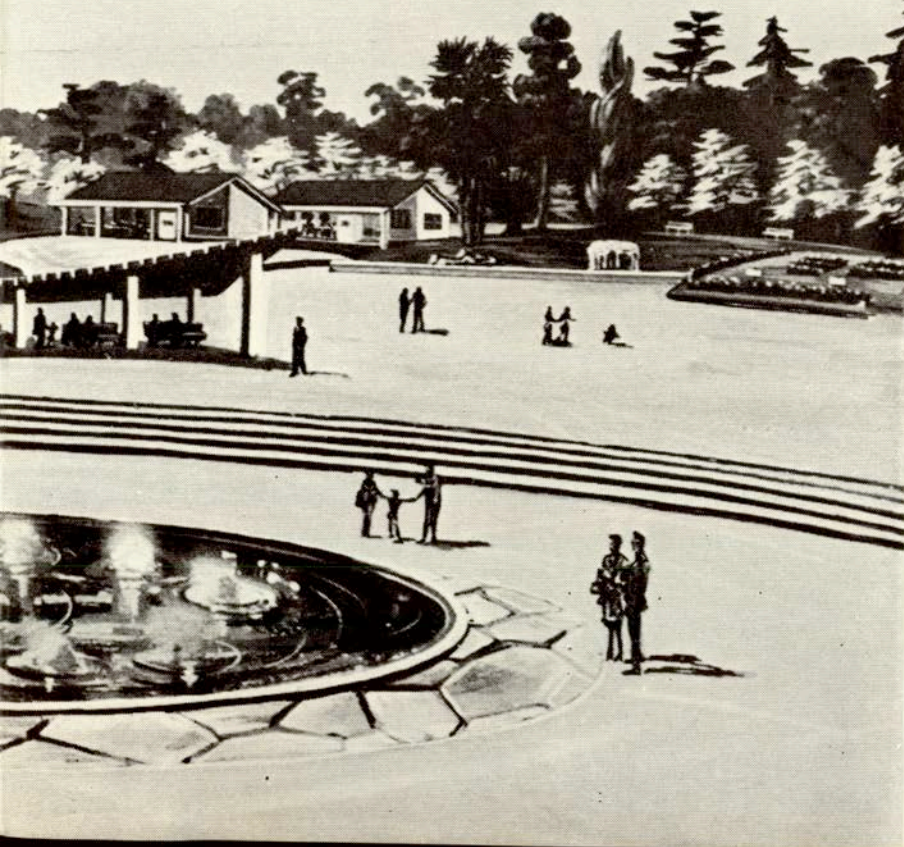
竹田 「近くオリエンタル、ポートホテルなどスケールの大きいホテルが建設されつつありますが、あれは一日も早く完成してほしいと思うんです。神戸のホテル施設は、東南アジアの都市の方がいいものネ……ちよっと淋しいよ」

牛尾 「あの、香港のビクトリアパークの道は、六甲山ドライブウェイとあまり変らないんだが、一つだけ変っているのは、照明なんです。ナトリウム灯は霧をとおして光りますからね、綺麗だなア、雲の中を光の帯が山頂に続いていくんでね、それは見事だよ」

いづれにしても、神戸市の観光施設の計画に一貫性が見られず、何か総花的になり勝ちです。よ、だから今後は、重点的な方策で、一貫した線を打出してもらいたいと思いますネ――

今度の噴水計画はそう言う意味で期待していただけたと思います。しかし、我われはあくまでも計画推進のお手伝いをしているの、何と言っても神戸市民の憩い場でもある訳です、大いに自慢もしていただき、この噴水建設に





日本で初めての

# 大噴水が 建設されます



主 唱

## 神戸青年会議所

神戸青年会議所は“新しい神戸”を担って立つ青年経済人の集いです。

設立5周年を迎えた神戸青年会議所では、“神戸を美しくするために”と日本で最初の雄大な噴水公園の建設を主唱、完成も間近になりました。

市民の憩いの公園として、また観光神戸のポイントのひとつとして、神戸港の玄関口を飾りたいと願っています。

市民のための噴水建設にご協力下さい。







江戸、とうきょう、T O K Y O——花咲くミナト神戸から、ふしぎな町にやってきてしまった。

まず、人と車がやたらに多いのでたまげてしまう。銀座四丁目のカドに立ってネオンの林をニヤニヤと見回していたら、案内役をかってでた同僚のA君が「おのぼりさんみたいでみっともないからさっさと歩こう」と、ぼ

わんぱくざかり江戸日記

# 踏 雑

伊 達 俊 太 郎



くのわき腹をこずいた。

東京の人たちは、田舎者と思われないように神経をとがらせているので、みなわき目もふらずに急いで歩く。「町のあちこちを楽しみながら見歩くなんてことはそもそもおのぼりさんのすることだ」——A君はそんなふう

まで読み通してやった。十分かった。

◇ 国電。このぐらい「東京らしいもの」はない。朝、夕のラッシュ時、緑や赤の腕章をつけた学生アルバイト氏が、紳士淑女諸君をぐいぐいと押込む。「押し屋」とよばれるアルバイト氏も、もちろん乗客諸氏も汗たらたら……。電車のドアの前で押込まれる順番を待ちわびていた紳士淑女諸君は、自分の体が確実に車内に入ったのを知ると、とたんに「アラ」とか「ヤレヤレ」とかいいながら満足そうにはお笑む。車内に入ったら、こんどは、もうこれ以上人間をつめ込まさないように体の表面積を拡大するのが東京に生きるためのコツである。BGらはしとやかにもいたいたしい悲鳴をあげ、サラリーマン君はスポーツ新聞を広げてできるだけ自分の回りにスキ間をつくろうとする。この点が東京人は実にスマートだ。ほんとに感心する。

◇ 「押し屋」の手さばきが見事なので、ためしにぼくも順番を待ってみた。ドアの内側にやっと思半分を入れてもらったが、これ以上はどうにもならず、ぼくとアルバイト氏は汗だらけの顔を見合せて途方にくれてしまったそこへ赤い手旗をふらさげた駅員がすっとなできて、いきなり「押し屋」を押しつけ、ぼくと、もうひとり中年のサラリーマン氏をはぎとるようにホームへひきずり出した。あとでA君から説明してもらったが、さいきんはこういう「はぎ屋」も登場してきたのだという。

「関西の私鉄じゃあ、駅員が改札口でいちいち帽子をとって客にマイドアリガトウって礼をいうんや」と出まかせをいったら、この江戸っ子先生、何でも知ってるような表情で「そうだろうなあ、むこうは東京に比べればまだ田舎だからなあ」と答えた。

東京に住む人たちは、踏まれても、蹴とばされても、なかなか「われ首都に住めり」という自信を失わない。りっぱである。





夏はビールの季節だ！  
 コクのあるビールが飲める  
 ビールがうまくなる料理がある  
 ビヤホール&レストラン

**ニール・ト・ト**

神戸 三宮大丸山側 ③ 1422・6457



きものと細貨

東京 神戸

|      |       |      |      |
|------|-------|------|------|
| 銀座店  | 新橋店   | 東店   | 西店   |
| ／    | ／     | 店    | 店    |
| TEL. | TEL.  | TEL. | TEL. |
| 小松   | (571) | ③    | ③    |
| スト   | 70    | 08   | 08   |
| ア    | 78    | 63   | 63   |
| 地    | 20    | 26   | 26   |
| 階    | 10    | 9    | 9    |
|      | (代) 7 | (代)  | (代)  |



**おんがら屋**

オメガシーマスター



防水時計は

美 田

MOTOMACHI-3

TEL (3) 1798

あなたと私のバカンスルック



SUGIYA

ハンカチと下着の店  
トア・ロード TEL③3436



## ●暮しのアクセサリー③

# ガラスのしるべ

矢野有尚

硝子と云う字は、徳川時代の辞書にも見られますが、それがガラスと発音されるようになったのは明治中期、英国からガラス製造技術が導入されてからと伝えられています。

なつかしいビードロ、又はギヤマンなどと云う言葉で呼ばれて来たガラスが、わが国で使われ初めたのは、徳川時代オランダあたりから舶来品として来たものと一緒に思われているようですが、これはあやまりで、古くからわが国にもあったのではないかと考えられています。現在のようにすぐれた透明度、色彩はありませんが曲玉の類にガラスに類似したものが数多く見られます。私たちが一度耳にしたことがあると思いますが仁徳天皇の御陵付近からもガラスの杯と思われるものが発掘されています。大きなものは技術的にはむづかしかったものと見え、小さなものは奈良朝時代からさかんに製造されたようです。平安時代に入り次第に製造がおとろえ、その後、足利末期外国貿易が開かれるまでガラス製品は見うけられなかったようです。当時はごく限られたハイソサイテイの人々に愛用され徳川時代に入り、ビードロと

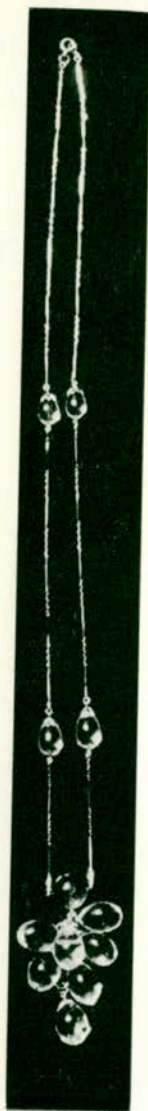
云う名で巾をきかせていたものです。

そこで現在の様にガラス製品があらゆる分野に発展したのは第一次世界大戦以後でありさらに昭和に入るとそれぞれ専門化され、製法技術もオートメ化され、ガラスの持味を生かした室内装飾品、あるいは工芸彫刻品として登場。大衆に広く愛されるようになって来ました。ガラスの伝統的な性格と、本質的な近代性とは認められて来たことでもありましょう。

きらびやかなガラス工芸品は一樣に美しく見えて、選択に迷うものですが、良い場所の良いものを、ジカに眼から吸収し、長い時間をかけて、数多く見ているうちに自分の本当に好きなもの、これだという感覚が身について来るものです。目に見えない作者の苦心、作品の価値その神秘的な美しさを語っているのはなんといいっても作品そのもののなのです。

いつまでもガラス工芸品の美しさは、見る人々の心を楽しませてくれることでしょう。

(ガラス工芸・くらしのデザイナー)



## 白を着る

福 富 芳 美



「白」は夏の色です。涼感を呼ぶ、モダンで清潔な色で、夏のベスト・カラーです。今年は、カラーフルなファッションの反動のように「白」が流行しはじめたようです。

パリでも、デオールなどが、モードのポイントに、「白」を十分に使って、清楚なデザインで流行のさきがけをつくっています。

「白」と言えば、どなたも、幼ない頃から身につけられたカラーですから、こんなポピュラーな、年令のない色は「白」だけが持つものです。

「白」といってもいろんな種類があります。さらしていい生肌の白。すきとおらないブロードの白。まっしろい涼しい麻。にぶい光のサテンの白。オーガンジーのすける白。やわらかい感じのアイボリーの白。木綿の白。まだまだ「白」はたくさんの種類があります。

それだけに白は一つの色でありながらたいへんむづかしい色なのです。

「白を着る」おしゅれはなんといっても清潔なものを着ることが大切です。汚れた白はみるからにいやなものです。

昔、おしゃれな紳士は、夏は白麻の服を着ました。そして白い服を着こなすために、大へん気をつかいゆきと

どいた手入をしたものです。何着も揃えて、いつも汚れないものを着ていました。とにかく、紳士の最高のおしゅれは、夏、白い服を着こなす方がただと言われます。

「白」はドレッシーに着る場合とたいへんスポーティに着る場合とふた通りにわけられます。ドレッシーに「白」を着こなせるのはむしろ大人の方達でしょう。大人っぽく個性的にモード的に着なければ野暮ったくみえるものです。

「白」のシルエットに黒い手袋、ハンドバック、黒い靴といったふうに他のものでアクセントをつけて着ると、はつきり白を強調することが出来るでしょう。又、「白」にエメラルド・グリーンは黒をもつてくるのとは違った柔らかなドレッシーなポイントで白をひきたてます。「白を着る」にはまず、色のハーモニーよりもコントラストをよく考えて身につけることが大切です。白と中間色はコントラストがはつきりせず避けられたほうがいいようです。

若い人たちには白はよりスポーティに着ていただきたいものです。白を部分的に使って清潔感と若さを生かしてみましょう。小さく「白」をびりっときかせるということもたいへん効果があるものです。普段の服に白い手袋、白い鈴は清潔さをあらわします。ポケットの白はアクセントに。また「白」のワンピースの衿や胸元にぱつとした明るい赤か紺のボーや造花をつけたり、ベルトの色は派手なものをするなどの工夫はかわいらしいドレッシーな雰囲気を出してくれるのです。

この夏は「白」を上手に使ったおしゅれを楽しんでください。

太陽の光にとほしいパリの町では、グレーの装いがマッチしますが、海と山を身近にした明るいリゾートの町神戸はもっとも「白」の装にふさわしい町といえるでしょう。輝やく夏の光をあびて、ホワイト・モードで美しく装ってください。(神戸ドレスメーカー女学院院长・

大丸神戸店顧問デザイナー) 談





紳士服飾・婦人服飾

**セリザワ**

紳士服飾//丸・丸 前 (3) 3900  
 婦人服飾//丸・丸 前 (3) 1695  
 婦人服飾//三宮センター街 (3) 6114  
 婦人服飾//姫路やまとやしき (23) 1221

汗ばむ季節に 1 時間パーマ



**マキシン美容室神戸店**

*Maxine Beauty Shop*

神戸・三宮神社前三上ビル3階 電③ 4917  
 西寺尾店 (文化センター内)・横浜元町店 0312  
 軽井沢店 2771・博多大丸美容室・香港大丸美容室



空と山と海の町  
KOBE

夏のお買物は  
美しい神戸の

トップショップで  
お楽しみ下さい

洋品雑貨

リリアン  
ショップ

センター街 ㊤ 3251 ・ 3567

流行のトップを知らせする  
メンズショップ

千 秋 堂

元町4丁目㊤ 6959

コスチュームアクセサリ

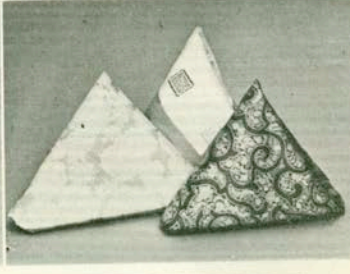
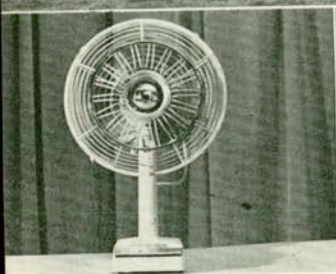
芸 い む 夢

トアロード ㊤ 8643 ・ 2293

心斎橋ロビー (211) 5153

心斎橋名店街・小丸ビル





あらゆる電器製品の店  
**元町電機**

元町6 ④3701~5

紳士洋品の店  
**サカエ**

元町2 ③5122

夏の装いのお仕度を  
秀品店友の会加盟店  
**トーレイ洋装店**

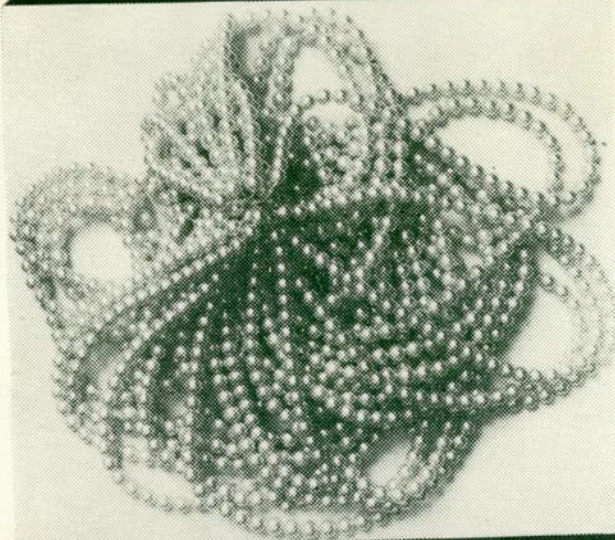
新聞会館1館 ㊟2818

男子洋品の店  
**フナキヤ**

元町3 ③3617

## 斯界の代表タサキパール

ネックレス, リング, フローチ  
真珠装身具一切



養殖加工  
K.K. 輸出販売

# 田崎真珠

取締役社長 田崎俊作

本社 神戸市兵衛区難塚通6丁目9番地 TEL神戸 (22) 3321-3  
東京店 東京都銀座西6丁目5番地(並木通) TEL東京 (572) 2655  
神戸店 三ノ宮駅前神戸新聞会館秀品店内 TEL神戸 225 6 4 6